

長寿医療研究委託事業  
総括研究報告書

健康長寿社会構築のための社会（医学）的、政策的、経済的調査分析と課題解決のための政策立案に係る包括的研究：高齢者の自立支援に資する総合的研究

研究代表者 荒井由美子 国立長寿医療センター研究所  
長寿政策・在宅医療研究部長

研究要旨

加齢や認知症により、日常生活に困難が生じ援助を必要とする高齢者に対して、地域における自立した生活を維持できる健康長寿社会を構築するためには、社会支援策の実現と環境整備の促進が必要不可欠である。本研究班では、地域における移動手段の確保、及び、運転中止に際しての高齢者本人及び家族の適応力の向上に資すべく、1～6 の分担研究を実施し、下記の事項を明らかにした。

1) 認知症高齢者に特化した移動・外出支援事業を実施している自治体（6市区町村）において、その具体的な支援内容としては、「移動・外出時の付き添いや介助」「福祉バス・介護タクシー」「公共交通機関の利用助成」であった。また、自治体が認識する事業実施後に生じた課題としては、「個別ニーズに対応するのが困難」「利用者数が予測よりも少なかった」が多く挙げられたものの、現在ではある程度克服されていることが示された。したがって、事業実施に際して課題が生じたとしても、それを克服する手段・方法を明らかにすることができれば、課題の対処方法の提示が可能となり、事業の普及に資する有用な知見が得られるものと考えられる。2) モデル市区町村における調査から、福祉有償運送の運行に際して、費用面での行政支援が必要であること、また、乗り合い型の需要応答型交通は、現在運行されている行政バスを代替できることが明らかになった。3) 過疎地域の小規模高齢化集落において、地理的辺境度と集落小規模度の相関、運転可能住民の割合と利便性認識に強い関係があることが明らかになった。4) 認知症高齢者の自動車運転の中断に関する心理社会的要因としては、家族が運転をしている、もしくは生活必需品に運転を依存しない居住地在住の者であることが明らかとなった。したがって、認知症及び認知機能低下者の運転中断には、居住地や家族の免許有無など社会的要因が大きいものと考えられる。5) 医師ならびにケアマネジャーにおける、認知症患者の自動車運転に関する法制度の理解度と対応に関する検討については、現在、調査票の回収に努めている。6) 講習予備検査を受けた75歳以上の高齢者4299名において、全体の60%近くがほぼ毎日運転

していることが明らかになった。また、全体の 25%は、運転免許を返納した場合に、代わりの運転者がいない、あるいは他の交通手段がないなど、生活に大きな影響があることが示された。

#### 研究分担者

猪井博登 大阪大学助教

小川全夫 山口県立大学大学院教授

上村直人 高知大学医学部神経科精神科講師

池田 学 熊本大学大学院生命科学研究部脳機能病態学教授

三村 將 昭和大学医学部精神医学教室准教授

#### A. 研究目的

加齢や認知症により、日常生活に困難が生じ援助を必要とする高齢者に対して、地域における自立した生活を維持できる健康長寿社会を構築するためには、社会支援策の実現と環境整備の促進が必要不可欠である。そこで、本研究班では、臨床医学、社会医学、都市工学等関連分野からの多面的アプローチと分野間連携により、高齢者の移動支援を視野に入れながら、自立支援に資するための包括的かつ学際的研究を行い、その成果の医療・保健福祉政策への展開を図り、高齢者（認知症高齢者）にとって住みよいまちづくりに寄与することを目的とするものである。

#### B. 研究方法

本研究班では、上記研究目的を果たすため、二つの観点から研究を実施するものであり、第一の観点としては、地域における移動手段の確保（分担研究 1～3）、そして、第二の観点として

は、運転中止に際しての高齢者本人及び家族の適応力の向上（分担研究 4～6）である。

本年度において、分担研究 1 では、全国市区町村における認知症高齢者に対する移動・外出支援事業の実態把握及び事業実施に際しての課題に関する検討を実施した。該当する事業を実施している 120 市区町村を対象として、事業の詳細と事業実施に際しての課題について尋ねる自記式質問票を作成し、郵送調査を実施した。次に、諸課題への具体的な対処方法を把握するため、郵送調査から抽出された市区町村を対象に、半構造化面接調査を、実施しているところである。分担研究 2 は、モデル地域における住民運営型交通の整備とその効果について検討するため、地域での生活維持の実現に必要な公共交通について、供給側と需要側の両面からの検討を行うものである。本年度は、国勢調査等のデータ収集を実施し、また、モデルとなる市区町村において、福祉有償運送に関す

る面接調査、及び、乗り合い型の需要応答型交通に関するケーススタディを実施した。分担研究3では、過疎地域における新たな生活交通システムの構築について検討するため、本年度は、対象となる過疎地域の小規模高齢化集落の抽出と、当該地域住民を対象とした調査を実施した。

分担研究4は、疾患教育的介入の実践及び認知症高齢者の自動車運転と地域療養生活支援のあり方について検討するものであり、本年度はまず、認知症高齢者の自動車運転と運転中断に関する心理社会的要因を明らかにするため、大学附属病院において認知症及び認知機能低下を認める運転免許保持者を対象に、調査を実施した。分担研究5では、認知症患者の運転免許制限に関する臨床現場の対応について検討するため、本年度は、一都道府県の認知症疾患医療センター(8箇所)を介して医師及びケアマネージャーを対象に郵送調査を実施した。分担研究6では、75歳以上の高齢運転者における免許更新時の認知機能検査等の実態把握及び課題に関して検討するため、本年度は、講習予備検査を受けた高齢者約4000名を対象に、質問票の作成及び調査を実施した。

(倫理面への配慮)

研究対象者には、研究計画を口頭及び書面にて説明し、研究参加の同意を得ている。得られたデータを全てコード化し、個人を特定しうるものは本研究の目的以外に使用しないことを遵守する。また、必要に応じて、研究開

始前に、研究担当者の所属機関において、倫理委員会に諮り承認を得ている。

## C. 研究結果及びD. 考察

研究範囲が広範であるため、分担研究ごとに報告する。

### 1. 全国市区町村における認知症高齢者に対する移動・外出支援事業の実態把握及び事業実施に際しての課題に関する検討(研究代表者 荒井由美子)

調査対象となった120市区町村のうち、回答数は73(回収率:61%)であった。認知症高齢者に特化した移動・外出支援事業の実施は、6市区町村に認められ、その具体的な内容としては、「移動・外出時の付き添いや介助」「福祉バス・介護タクシー」「公共交通機関の利用助成」であった。認知症高齢者を対象とした移動・外出支援事業を実施している自治体が認識する「事業実施に際しての課題」としては、まず準備段階で生じた課題として、利用者の予測や対象者条件・料金の設定に関する困難が挙げられた。次に、事業実施後に生じた課題としては、「個別ニーズに対応するのが困難」「利用者数が予測よりも少なかった」が高いものの、現在ではある程度克服されていることが示された。

本研究より、現状では、認知症に特化した事業を実施している自治体は極めて少ないもの、今後、事業実施に際しての課題を克服する手段・方法を

明らかにすることができれば、課題の対処方法の提示が可能となり、事業の普及に資する有用な知見が得られるものと考えられる。

研究協力者 新井明日奈、水野洋子  
(国立長寿医療センター 研究所 長寿政策・在宅医療研究部)

---

## 2. モデル地域における住民運営型交通の整備とその効果 (研究分担者 猪井博登)

住民運営型交通であり、移動のセーフティネットの役割を負っている福祉有償運送について、その費用を検証したところ、現在の福祉有償運送の運行費用は、166 円/km～308 円/kmであった。使用車両の減価償却を考慮すると、209～326 円/kmであった。このことは、福祉有償運送の運行に際して、費用面での行政支援が必要であることを意味する。

一方、上記の代替案として、乗り合い輸送を行う需要応答型交通を運行する場合、8 両の車両が必要なことが明らかになった。現在運行されている行政バスを需要応答型交通で代替できることを意味する。今後、福祉有償運送への補助・支援の一方、需要応答型交通などの乗り合い型交通に転換を促進する施策展開が必要である。

---

## 3. 過疎地域における新たな生活交

通システムの構築に関する検討 (研究分担者 小川全夫)

過疎地域の小規模高齢化集落において、集落代表者からの回答があった270 集落の「結節機関への利便性」調査結果によると、世帯員が全員運転免許を持たないという集落は40%に達していた。小規模高齢化集落では、自家用車を運転できない住民が多く、路線バスやタクシー会社が撤退すると深刻な交通弱者問題が表面化するということを意味する。このような集落においては、地理的辺境度と集落小規模度の相関、運転可能住民の割合と利便性認識に強い関係があることが明らかになった。小規模高齢化集落の中には、自動車の運転ができる住民が半数以上いなければ、利便性が悪くなる地理的条件不利な集落が数多くある。こうした地域では、スクールバスへの一般混乗と自家用車過疎地域有償運送が生活交通支援の基本になっている。しかし、今後、小規模高齢化集落の生活交通事情は厳しさを増していくので、この方式をさらに補完するシステムを検討する必要がある。

---

## 4. 認知症高齢者の運転中断に対する心理教育の効果に関する予備的検討 (研究分担者 上村直人)

46 名の認知症高齢者に対して、心理的介入を行ったところ、46 名中34 名(73.8%)が運転中断に成功してい

た。鑑別診断別の内訳は以下の通りである。アルツハイマー病 (AD) 18 名 15 名 (83.3%)、血管性認知症 (VaD) 9 名中 7 名 (77.7%)、前頭側頭葉変性症 (FTLD) 11 名中 6 名 (54.5%)、レビー小体型認知症 (DLB) 4 名中 4 名 (100%)、軽度認知障害 (MCI) 2 名中 0 名 (0%)、高次脳機能障害 (TBI) 2 名中 2 名 (100%) であった。

これらの結果から、疾患教育と認知症の運転行動に関する知識教育を同時に行う心理教育的介入は、背景疾患によって成功率は異なるが、認知症患者を運転中断に導く手段として一定の有効性があると考えられた。また、心理教育的介入でも中断につながらない対象者の特徴としては、運転の代行者が同居者にいない、生活必需品を得るための交通手段がない地域在住の者や、介護者の高齢化により知識教育が理解されにくい、疾患が FTLD であることが中断阻害要因と考えられた。そのため、今後は社会資源の利用方法や背景疾患の行動特徴や運転行動に関する知見を含めた知識や情報提供を盛り込んでいく必要があると考えられた。

---

#### 5. 認知症の自動車運転に関する医療・福祉関係者の理解度と対応に関する研究 (研究分担者 池田 学)

発送した 158 件の質問票のうち、報告書執筆時点までに、回収できたのは 88 件であった。そのうち、医師は 44

件、ケアマネージャーなどは 44 件であった。まず、今回の対象の中には自動車運転の相談目的にセンターを利用した者はいなかった。講習予備検査 (認知機能検査) について、始まったことも内容も知っているとは 15 名、始まったことは知っているが内容は知らないが 61 名、何も知らないが 12 名であった。講習予備検査において記憶力・判断力が低くなっている者と判断され、一定の期間に特定の違反行為をした場合、医師による診察または主治医の診断書の提出が必要になることについて、知っていたのは 25 名、知らなかったのは 63 名であった。改正道路交通法の施行以後 (平成 21 年 6 月 1 日以後)、認知症患者が自動車運転をしていた場合、どのように対応しているかという問いに対しては (複数回答可)、「運転中止を指導した」が 53 名、「免許の自主返納を勧めた」が 40 名、「家族の判断に任せた」が 17 名、「特に何もしなかった」が 3 名、「警察に相談するよう勧めた」が 8 名であった。

以上の結果から、センターを利用した、おそらく認知症医療に強い関心を有していると考えられる医師やケアマネージャーにおいても、75 歳以降の免許更新時に実施され始めた認知機能検査の存在は 88% に知られていたものの、その内容については 17% にしか知られていなかった。また、認知機能検査の成績と交通違反次第で医師による診察または主治医の診断書の提出が必要になることを知って

いたのは、わずか 28%であった。認知症患者の自動車運転に関して、運転中止を勧めたり、診断書を作成したりする役目を担うべき、主治医やケアマネージャーに改正道路交通法の内容が十分に浸透していないことが明らかになった。

#### 研究協力者

小嶋誠志郎、矢田部裕介、兼田桂一郎、本田和揮、小川雄右、遊亀誠二、橋本衛(熊本大学大学院生命科学研究部脳機能病態学)

#### 6. 75歳以上の高齢運転者における免許更新時の認知機能検査等の実態把握及び課題に関する検討(研究分担者 三村 将)

回答者の84.3%が週に数回からほぼ毎日運転していた。運転の目的は「買い物に行くため」が72.4%でもっとも多く、次に「病院に行くため」が52.6%であった。また1回の運転時間は「30分から1時間」が44.6%でもっとも多かった。

交通環境については、運転をやめると公共交通機関など他の交通手段がほとんどない者が23.4%、運転免許を返納すると身近に運転を頼める者がいないと回答した者が25.3%であった。免許の自主返納については、19.9%が考えたことがあると回答していた。運転に関する自己評価については、自分の身体能力や運転能力に自信がない

ものはきわめて少なかった一方、55.1%の者が夕方や夜間の運転を控えるなど、何らかの制約を設けていた。高齢者の8割以上が日常的に運転を行っていた。またおおむね高齢ドライバーの25%が免許を返納すると公共交通機関や代わりの運転者がいないため、買い物や通院など生活に直接影響が生ずることが明らかとなった。

#### E. 結論

高齢者が、地域で可能な限り自立した生活を継続すること、また、それを地域の社会資源を有効に活用して医療・保健・福祉・行政関係者が連携して支援することは、重要な課題である。特に、認知症等の疾患により、自動車運転の中止を余儀なくされ、自立の重要な要素である移動に支障が生じることについては、可能な限り、代替移動手段を確保し、社会参加の促進を図ることが求められる。本研究班は、この課題に対して、2つの観点から学際的に取り組むものである。初年度は、各分担研究の基盤となる研究体制を構築するため、対象者の抽出、調査票の作成検討及び配布・回収、データ確認、及び予備的解析に尽力した。来年度には、各分担研究において、本年度の研究を発展させ、対象規模を拡大した調査・分析(全国市区町村を対象とした大規模調査等)、及び収集データの多面的解析を実施することが予定されており、高齢者及び認知症高齢者の移動支援について、地域による移動

手段の確保、並びに、個人の環境への適応に資する有用な知見が得られるものと期待される。

F. 研究危険情報  
特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

Tokunaga S, Washio M, Miyabayashi I, Shin Y, Arai Y. Burden among Caregivers of Parkinson's Disease Patients. Int Med J 2009; 16(2): 83-86.

Arai A, Mizuno Y, Arai Y. Differences in perceptions regarding driving between young and old drivers and non-drivers in Japan. Int J Geriatr Psychiatry 2009; (in press)

Arai Y, Arai A, Mizuno Y. The National Dementia Strategy in Japan. Int J Geriatr Psychiatry 2009; (in press)

西川浩平, 増原宏明, 荒井由美子. 人工透析患者における外来受診行動についての分析. 季刊社会保障研究 2009 ; 44(4) : 460-472.

上田照子, 三宅真理, 西山利正, 田近亜蘭, 荒井由美子. 要介護高齢者の息子による虐待の要因と多発の背景. 厚生生の指標 2009 ; 56(6) : 19-26.

水野洋子, 新井明日奈, 荒井由美子. 経済連携協定下での外国人介護福祉士候補者の受け入れに関する都道府県の問題意識. 社会保険旬報 2009;2403 ; 14-19.

荒井由美子, 新井明日奈, 水野洋子. 認知症患者の運転:社会支援の必要性. 精神神経学雑誌 2009 ; 111(1) : 101-107.

荒井由美子, 新井明日奈, 水野洋子. 認知症高齢者と運転:社会支援のあり方. 老年期痴呆研究会誌 2009 ; (印刷中).

小川全夫, 外国人介護福祉士導入をめぐる論点—誤解から理解へ、九州アジア総合政策センター紀要、2009; 3:67-76.

小川全夫, 見直しを迫られる過疎対策、過疎対策の新たな対応策に関する調査研究委員会報告書、(財)過疎地域問題調査会、2009; :5-9.

小川全夫, 新たな過疎対策に求められる枠組み、過疎対策の新たな対応策に関する調査研究委員会報告書、(財)過疎地域問題調査会、2009; :11-16.

上村直人, 谷勝良子, 井関美咲, 諸隈陽子: 各国の認知症と自動車運転に関するガイドラインと課題. 各国の認知症治療ガイドライン. 老年精神医学雑誌 V01 20 (4) 421-435. 2009

上村直人：認知症高齢者と自動車運転。特集 高齢者のこころと介護。心と社会 2009 40 巻 3 号 15-23. 日本精神衛生会 東京

上村直人, 谷勝良子、井関美咲、諸隈陽子：運転免許—認知症患者の自動車運転と医師の役割。423-432 老年医学の基礎と臨床II—認知症学とマネジメント—ワールドプランニング 2009

三野善央, 下寺信次, 上村直人, 米倉裕希子, 何 玲：カンバウエル家族面接による家族感情表出 (Expressed Emotion, EE) 評価の信頼性に関する研究。社会問題研究 第 58 巻 19-28. 2009

上村直人：認知症と自動車運転。第 105 回日本精神神経学会総会 シンポジウム「認知症の臨床における最近の話題」精神神経学雑誌 111 (8) 960-966. 2009

Suh GH, Wimo A, Gauthier S, O'Connor D, Ikeda M, Homma A, Dominguez J, Yang BM. International Price Comparisons for the Alzheimer's Drugs: A Way to Close the Affordability Gap. Int Psychogeriatr 21 : 1116-1126, 2009

Fushimi T, Komori K, Ikeda M, Lambon Ralph MA, Patterson K. The association between semantic

dementia and surface dyslexia in Japanese. Neuropsychologia 47:1061-1068, 2009

Shinagawa S, Adachi H, Toyota Y, Mori T, Matsumoto I, Fukuhara R, Ikeda M : Characteristics of eating and swallowing problems in DLB patients. International Psychogeriatrics 21 : 520-525, 2009

寺川智浩, 玉井 顯, 池田 学. 認知症高齢者の自動車運転に関するアンケート調査—アルツハイマー病患者の自動車運転に対する家族と患者の認識の乖離に関する研究—. 老年精神医学雑誌 20 : 555-565, 2009

清水秀明, 福原竜治, 谷向 知, 池田学, 石川智久, 銚石和彦. 統合失調症における向精神薬の多剤併用から perospirone による単剤化への経験. 愛媛医学 28 : 90-98, 2009

繁信和恵, 池田 学. FTLD 患者への対応. BRAIN and NERVE 61 : 1337-1342, 2009

繁信和恵, 池田 学. 認知症 1 行動療法的アプローチ・環境調整. 精神療法・心理社会療法ガイドライン (精神科治療学編集委員会, 編). 精神科治療学 24 増刊号 : 329-336, 2009

池田 学. 若年性認知症の運転免許の問題. 精神医学 51 : 961-966, 2009

池田 学, 矢田部裕介. 地域認知症ケアで医療に求められるもの. 日本老年医学雑誌 46 : 211-213, 2009

橋本 衛, 池田 学. 認知症に対する早期介入のエビデンス. 臨床精神薬理 12 : 435-445, 2009

## 2. 著書

荒井由美子, 熊本圭吾. 高齢者リハビリテーションと介護. 武田雅俊, 編. 改訂・老年精神医学講座; 総論. 東京: ワールドプランニング, 2009 : 197-212.

荒井由美子. 精神障害の現状と動向. 鈴木庄亮・久道 茂, 監修. 小山 洋・辻 一郎, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2009. 東京: 南江堂, 2009 : 307-318.

荒井由美子, 花岡智恵. 世帯構成の推移と将来予測. 井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二, 編. 統計データでみる高齢者医療. 東京: 文光堂, 2009 : 46.

荒井由美子, 花岡智恵. 都道府県別の高齢者独居・夫婦のみ世帯数. 井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二, 編. 統計データでみる高齢者医療. 東京: 文光堂, 2009 : 47.

荒井由美子, 花岡智恵. 高齢者の経済力ー収入・年金・預貯金などー. 井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二, 編. 統計データでみる高齢者医療. 東京: 文光堂, 2009 : 48.

荒井由美子, 花岡智恵. 高齢者の就業状態. 井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二, 編. 統計データでみる高齢者医療. 東京: 文光堂, 2009 : 49.

荒井由美子, 新井明日奈. 高齢者の社会参加. 井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二, 編. 統計データでみる高齢者医療. 東京: 文光堂, 2009 : 50.

上村直人, 井関美咲. 前頭側頭型認知症の脱抑制ー特に自動車運転について 138-145 前頭側頭型認知症の臨床専門医のための精神科臨床リユミエール 12 中山書店, 2010

## 3. 学会発表

Arai Y. Exploring Measures to Prevent Caregiver Burden: The Effects of the National Long-term Care Insurance Scheme in Japan (plenary lecture). The 14th Congress of International Psychogeriatric Association, 2009 September 1-5 (September 3), Montreal, Canada.

Arai Y. Support systems for family caregivers of older people with dementia in Japan (Symposium). The 3rd Congress of the Asian Society Against Dementia, 2009 October 11-13 (October 13), Seoul, Korea.

Arai A, Mizuno Y, Arai Y. Perceptions about driving among the

general public in Japan: Implications for possible barriers to driving cessation of dementia patients. The 3rd Congress of the Asian Society Against Dementia, 2009 October 11-13 (Presentation: October 12), Seoul, Korea.

Mizuno Y, Arai A, Arai Y. Measures aimed at enhancing the mobility of older people in Japan: exploring possible implications for older drivers with dementia. The 3rd Congress of the Asian Society Against Dementia, 2009 October 11-13 (Presentation: October 12), Seoul, Korea.

荒井由美子. 認知症患者および家族への社会支援. 第24回日本老年精神医学会シンポジウム, 2009年6月18-20日 (発表20日), 神奈川県横浜市.

新井明日奈, 水野洋子, 荒井由美子. 認知症患者の運転行動特性の検討に資するための研究: 一般運転者における自己評価による運転行動と年齢との関連性に着目して. 第24回日本老年精神医学会, 2009年6月19-20日 (発表19日), 横浜市.

上田照子, 三宅真理, 荒井由美子. 在宅要介高齢者を介護する息子による虐待の実態と背景. 第51回日本老年社会学会大会, 2009年6月18-20日 (発表20日), 横浜市.

花岡智恵, 増原宏明, 荒井由美子. 医療費自己負担割合の上昇が高齢者の外来受診に与えた影響. 第51回日本老年社会学会大会, 2009年6月18-20日 (発表20日), 横浜市.

水野洋子, 新井明日奈, 荒井由美子. 全国市区町村における一般高齢者の移動に関する支援事業の実施状況及び課題. 第51回日本老年社会学会大会, 2009年6月18-20日 (発表20日), 横浜市.

増原宏明, 荒井由美子. 高齢者医療費のセミパラメトリックシミュレーション. 第51回日本老年社会学会大会, 2009年6月18-20日 (発表20日), 横浜市.

柴田由己, 安部幸志, 新井明日奈, 荒井由美子. 一般生活者を対象とした認知症介護に対する感情尺度の作成. 第20回日本老年医学会東海地方会, 2009年10月17日, 名古屋市.

新井明日奈, 水野洋子, 荒井由美子. 地域高齢者に対する移動・外出支援策に関する検討: 全国市区町村調査より (第一報). 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009年10月21-23日 (発表21日), 奈良市.

水野洋子, 新井明日奈, 荒井由美子. 地域高齢者に対する移動・外出支援策に関する検討: 全国市区町村調査より (第二報). 第68回日本公衆衛生学会

総会, 2009年10月21-23日 (発表21日), 奈良市.

倉澤茂樹, 吉益光一, 鷺尾昌一, 宮下和久, 福元仁, 竹村重輝, 横井賀津志, 荒井由美子. 在宅高齢者介護のリタイアに関連する要因. 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009年10月21-23日 (発表21日), 奈良市.

三浦宏子, 山崎きよ子, 安藤雄一, 江藤亜紀子, 荒井由美子. 地域要介護高齢者における口腔関連QOLに影響を及ぼす要因分析. 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009年10月21-23日 (発表21日), 奈良市.

豊島泰子, 鷺尾昌一, 今村桃子, 荒井由美子. 訪問看護ステーションの管理者のインフルエンザワクチンの意識調査. 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009年10月21-23日 (発表23日), 奈良市.

Ogawa, T. 2009. "Active Ageing Policy and Implementation in Japan." National Commission for Older Persons. The South East Asian Countries Regional Meeting on Active Ageing, 2 June, Jakarta.

Ogawa, T. 2009. "Global Ageing and its Impact in Asia Pacific Region and Japan: The Importance of Collaboration among Government, University and Industries."

University of Indonesia, the Symposium on Global Ageing and the Development of Education and Research in Gerontology - Geriatrics. 3 June. Jakarta.

Ogawa, T. 2009. "Active Ageing in Rural and Urban Japan." ACAP. Spinning Straw into Gold. The 19th World Congress of Gerontology and Geriatrics. July 6, Paris.

Ogawa, T. 2009. "ICT for the Rural Elderly in a Mountainous Area." ACAP, Digital Ageing. The 19th World Congress of Gerontology and Geriatrics. July 6, Paris.

Ogawa, T. 2009. "Toward Active Aging in Asia/Pacific: Platform for Age-friendly Programs." Mansfield Foundation, Methuselah's Challenge: Aging in Asia and America, 24 Sept., Montana.

Ogawa, T. 2009. "Social Inclusion to Support Elderly Workers." International Symposium on Ageing and Work Ability, October 19, Jakarta.

Ogawa, T. 2009. "Ageing in China, Korea & Japan." Kyushu University, The 4th China-Korea-Japan Symposium, "Regional Co-operation in East Asia:"

Common Risks and Challenges in Our Daily Lives.” Oct. 22, Fukuoka.

Ryoko Tanikatsu, Misaki Iseki, Naoto Kamimura, Manabu Ikeda, Shinji Shimodera, Kunio Kato. FTLD and driving: Are drivers with frontotemporal lobar degeneration more dangerous than those with Alzheimer's disease? IPA Th 9<sup>th</sup> Congress of International Psychogeriatric Association, 2009 September 1-5, Montreal, Canada

上村直人, 谷勝良子, 井関美咲, 惣田聡子, 赤松正則, 諸隈陽子, 下寺信次. PTSDおよび統合失調症との鑑別を要したTBI(高次脳機能障害)の一例. 第26回日本老年精神医学会, 2009年6月18-21日, 横浜市

谷勝良子, 上村直人, 井関美咲, 赤松正則, 惣田聡子, 諸隈陽子, 下寺信次. 認知症の自動車運転に関する医師会会員アンケート調査 - 医師からみた問題点と課題. 第26回日本老年精神医学会, 2009年6月18-21日, 横浜市

諸隈陽子, 上村直人, 赤松正則, 谷勝良子, 井関美咲, 惣田聡子, 下寺信次. 認知症と自動車運転 - 運転中断までの長期的予後について - 第26回日本老年精神医学会, 2009年6月18-21日, 横浜市

上村直人, 谷勝良子, 井関美咲, 下寺信次. 高齢者・認知症ドライバーの運転

免許の診断書作成に関わる医師会アンケート調査報告. 第105回日本精神神経学会, 2009年8月21-23日, 神戸市.

上村直人, 谷勝良子. 認知症の臨床における最近の話題 - 認知症と自動車運転 第105回日本精神神経学会, 2009年8月21-23日, 神戸市.

上村直人 PTSDおよび統合失調症との鑑別を要したTBI(高次脳機能障害)の一例, 第14回日本神経精神医学会, 2009年11月5-6日, 仙台市

上村直人 FTLD(前頭側頭葉変性症)と自動車運転 - FTDとSDの運転行動の差異について -, 第14回日本神経精神医学会, 2009年11月5-6日, 仙台市

上村直人 認知症者と自動車運転教育講演 第14回日本神経精神医学会, 2009年11月5-6日, 仙台市

上村直人, 谷勝良子, 井関美咲. 認知症高齢者と自動車運転 - シンポジウム; 高齢者ドライバーを巡る認知心理学的問題, 第7回日本認知心理学会, 2009年7月19-20日, 埼玉県新座市.

小松優子, 上村直人, 永野靖典, 谷勝良子, 井関美咲, 福島章恵, 石田健司. 自動車運転評価法の一検討. 第2回運転と認知機能研究会, 2009年

11月28日, 昭和大学, 東京都

Ikeda M. Symposium: Epidemiology of dementia . “Epidemiology of dementia in Japan” . 3<sup>rd</sup> International Congress of Asian Society Against Dementia, Seoul, October 11-13, 2009

Ikeda M. Symposium: Social and behavioral issues in dementia . “Fitness to drive in early-stage dementia: A project in Japan”. 3<sup>rd</sup> International Congress of Asian Society Against Dementia, Seoul, October 11-13, 2009

Ikejima C, Ikeda M., Hashimoto M, Ogawa Y, Tanimukai S, Kashibayashi T, Miyanaga K, Kakuma T, Murotani K, Mizukami K, Asada T. Prevalence and causes of early onset dementia in Japan –A multicenter population based study . 3<sup>rd</sup> International Congress of Asian Society Against Dementia, Seoul, October 11-13, 2009

Ikeda M. Symposium: Prevention of automobile collisions (driving in the elderly). “Epidemiological findings of drivers with dementia and new legal systems in Japan”. IPA 14<sup>th</sup> International congress, Montreal, September 1-5, 2009

Kamimura N, Tanikatsu R, Iseki M, Shimodera S, Ikeda M. Are drivers with frontotemporal lobar degeneration more dangerous than those with Alzheimer’s disease? IPA 14<sup>th</sup> International congress, Montreal, September 1-5, 2009

Kashibayashi T, Ikeda M., Komori K, Shinagawa S, Shimizu H, Toyota Y, Mori T, Ishikawa T, Fukuhara R, Ueno S, Tanimukai S. Transition of distinctive symptoms of semantic dementia during longitudinal clinical observation. IPA 14<sup>th</sup> International congress, Montreal, September 1-5, 2009

Ikeda M. Symposium: Hospital-Based Dementia Care. Disease-Specific Dementia Care in Japan. 2009 International Dementia Symposium, Ewha Woman’s University, Seoul, August 28, 2009

池田 学. 基調講演「高齢者のこころと介護」. 第55回精神保健シンポジウム, 鹿児島, 5月30日, 2009

池田 学. シンポジウム「認知症患者の社会支援」 BPSDを伴う認知症患者への支援. 第24回日本老年精神医学会総会, 横浜, 6月18-20日, 2009

池田 学. 名古屋大学医学部附属病院

地域医療センター主催シンポジウム  
「認知症診療の地域連携に関するシン  
ポジウム」認知症専門医療機関と地  
域との診療連携について. 名古屋大学  
医学部附属病院, 7月4日, 2009

1. 特許取得、2. 実用新案登録、3.  
その他、特記すべきことなし

池田 学. シンポジウム「認知症患者  
への取り組み」早期診断と疾患別治療  
のポイント. 第59回日本病院学会,  
熊本, 7月23-24日, 2009

山本吾子, 小林仁美, 元木順子, 山  
縣 文, 山本英樹, 富岡 大, 宮澤由  
美, 三村 將. 自動車運転にのみ固執  
傾向を示した前頭側頭型認知症の一  
例. 第33回日本神経心理学会総会,  
東京, 2009.9, 日本神経心理学会総  
会プログラム・予稿集, pp. 104.

藤田佳男, 山本吾子, 三村 將, 飯島  
節. 認知機能と運転安全性評価: 有  
効視野と神経心理学的検査, 運転状  
況との関連. 第33回日本神経心理学  
会総会, 東京, 2009.9, 日本神経心  
理学会総会プログラム・予稿集,  
pp. 65.

藤田佳男, 山本吾子, 三村 將, 飯島  
節. 高齢者における運転安全性評価:  
有効視野測定と神経心理学的検査と  
の関連. 第43回日本作業療法学会,  
郡山, 2009.6, 日本作業療法学会抄  
録集, C1-1-2.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予  
定を含む。)